

アジア研究教育ユニット（世界展開力・特別経費）平成 27 年度教育研究報告書

事業課題名	提携先研究機関からの学生の受け入れ/タマサート大学 提携先研究機関からの学生の受け入れ/ガジャマダ大学
代表者名	久野秀二（経済学研究科）
事業概要 (600 字程度)	<p>2013 年度に締結した経済学研究科とタマサート大学国際学部、同経済学部およびガジャマダ大学経済経営学部との交流協定に基づき、タマサート大学両学部の学生を計 8 名（うち 2 名は私費）、ガジャマダ大学経済経営学部の学生を 2 名、経済学研究科の東アジアコースを受け皿に 2 ヶ月間（ASEAN 諸国の大学の第 1 学期の最後と第 2 学期の最初に重なり単位履修への支障が最小限となる 12～1 月）の短期特別交換留学生として受け入れた。セミクォーター方式で開講する東アジアコースの一部科目を単位履修し、タマサート大学およびガジャマダ大学の単位として互換する取り決めとなっている。</p>
成果の概要 (800 字程度)	<p>タマサート大学国際学部・経済学部およびガジャマダ大学経済経営学部との交流協定にもとづく学生受入であり、今後の国際連携関係の強化にとって重要である。また、国際競争力を急速に高めているタイ有数の大学であるタマサート大学の学生（修士課程院生）を受け入れることで、本学（とくに東アジアコース）の学生に大きな刺激が与えられることが期待された。東アジアコースでは従来の中国・韓国に加えて、タイやインドネシア等の東南アジア諸国からの入学者が増えているものの、依然として北東アジアに重点が置かれているため、東南アジア諸国からの学生で、かつ多様なバックグラウンドをもつタマサート大学国際学部（ASEAN プログラム）の学生が加わることで、より国際的で多角的な視点が授業等を通じて醸成されるものと期待された。</p> <p>2015 年 12 月～2016 年 1 月の 2 ヶ月間、タマサート大学国際学部から 6 名（うち 2 名は私費）、同経済学部から 2 名、ガジャマダ大学経済経営学部から 2 名の修士院生を受け入れた。学生は各自の問題関心と必要性に応じて、東アジアコースで開講されたセミクォーター科目のうち 4 科目程度を履修。国際関係論や比較文化論、国際人権論など多様な専門分野から成る国際学部の学生は「サステナビリティ」をキーワードとする経済学分野の学習から得るものが多く、他方、経済学部・経済経営学部の学生は本学の多様な経済学アプローチとディスカッション中心の授業の進め方に大きな刺激を受けたようである。履修科目の一つ、フィールド調査論では、東アジアコースの学生らとともに福井原子力センター（福井県・敦賀市）や酒蔵（京都府・京都市）を訪れ、座学で学んだ「サステナビリティ」の考え方を実社会の問題とつなげて学習する機会を得るとともに、本学の学生と交流を深めることができた。</p>